

## 多彩に長包メロディー

2013年08月11日 芸能・文化

ツイート 0

いいね! 0



「えんどうの花」と「でいごの花と空と」で、かわいらしい歌声を披露した大浜小学校児童合唱団=10日夜、大浜公民館

### 生誕130年記念音楽祭で披露

沖縄近代音楽の父であり石垣市出身の作曲家で、童謡から民謡など幅広いジャンルの楽曲を手がけた偉大な宮良長包の生誕130年を記念した音楽祭（同実行委主催）が10日夜、大浜公民館で開催された。

音楽祭は舞台を使わず観客との距離を近くするためホールで行われた。2部構成の演目にソプラノ歌手、バリトン歌手、大浜小学校児童合唱団、三線奏者が出演し、フルートやピアノ、箏などの伴奏で「長包メロディー」を演出。会場に訪れた約130人の観客は全17曲に酔いしれた。

1部は歌曲が中心。「赤ゆらの花」をソプラノ歌手の小林朋代さんが澄み切った歌声で歌い開幕。酔っ払いの歌と呼ばれているユニークな「夕やけ」を伴奏をつけて田本徹さんが歌い上げた。二重層の「嘆きの海」は高音部をソプラノの歌声、低音部をフルートで演奏。故・森繁久彌さんが好きだったという「泊り舟」も披露された。長包の代表曲「えんどうの花」と、今回フルート・アコーディオン奏者として出演した一ノ瀬季生さん作詞作曲の「でいごの花と空と」を歌った大浜小学校児童合唱団のかわいらしい歌声に大きな拍手が送られた。このほか「大浜尋常高等小学校歌」「母恋し」「春小雨」「帰り舟」が歌われた。

2部は民謡を軸に展開された。幕開けは県内で広く歌い親しまれている「汗水節」をこの日命名された「オヤケアカハチトリオ」の前津伸弥、登野城吉明、大浜周平が披露。「コイナユンタ」がフルートの一ノ瀬季生と箏の古見裕美子、古見唯がコラボレーションした。箏曲用にアレンジされた「だんじゅかりゆし」。ソプラノ歌手上江洲ゆうなが与那国島を歌った「なんと浜」で伸びやかな歌声を響かせた。「母の声」「山の子守唄」「八重山音頭」の後、最後に全国的に知られる楽曲「安里屋ユンタ」を観客とともに歌ってフィナーレを迎えた。

楽曲の解説を務めた田本さんが最後に「今度は140年で会いましょう」と告げると会場からは笑いが起こり、和やかな雰囲気の中で幕を閉じた。